

情報連絡員総括表（2022年4月）

— 静岡県中小企業団体中央会 —

本書は、静岡県中小企業団体中央会が委嘱した情報連絡員〔協同組合等の役職員 60 名〕による毎月の景況調査の集計結果です。

1. 概況報告
2. 項目別の前月・今月のDI値の比較
3. 情報連絡員からの報告
4. 中央会・行政への要望
5. 主要三指標におけるDI値の推移（グラフ）

・本調査の見方・

◎売上高等の9項目につき **前年同月と比較し**、好転・不変・悪化 のいずれかを回答

$$DI \text{ 値} = [(\text{好転組合数} - \text{悪化組合数}) / \text{調査対象組合数}] \times 100$$

※全項目が前年同月比「不変」となった場合は、DI値は基準値 ±0.0 (=横ばい) で推移

※「在庫数量」のみ、プラス値が高いほどマイナス要因と定義

1. 概況報告 （回答者数 60 名：回収率 100.0%）

○2022年4月のDI値は、前月との比較において「在庫数量」「販売価格」「取引条件」「収益状況」「資金繰り」「業界の景況」の6指標が上昇した。

まん延防止等重点措置が解除され一か月が経過し、社会経済活動も再開に向け動きつつあるものの、新型コロナウイルス感染拡大の影響は依然大きく、加えて、国際情勢の変動や円安の進行も重なり、原材料・燃料の高騰、部品調達難等への対応に苦慮する状況であり、先行きへの不安も増している。

○「製造業」では、前月との比較において、「在庫数量」「販売価格」「取引条件」「収益状況」「業界の景況」の5指標が改善した。

電気機械器具製造業からは、「中国のロックダウンの影響を含めて部品調達問題が継続して発生しており、生産計画の変更が頻発している。また、原材料や副資材などの値上がりが続いているため、親企業と連携して対策を進めている」とのコメントが寄せられた。

○「非製造業」では、前月との比較において、「売上高」「在庫数量」「販売価格」「取引条件」「収益状況」「資金繰り」の6指標が改善し、悪化は「雇用人員」のみの結果となった。

道路旅客運送業からは、「旅客需要の回復は僅かながら出始めているものの、運送収入、輸送人員ともに新型コロナウイルス感染拡大前の6割程度と厳しい経営状況が続いている。物価や燃料高騰への対応として導入される経済対策に頼らざるを得ない」との声が寄せられた。

(DI値)

	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備操業度	雇用人員	業界の景況
2022年4月	-11.7	-22.8	26.7	-23.4	-31.7	-20.0	-30.0	-18.3	-26.7
2022年3月	-6.6	-13.6	16.7	-26.6	-43.3	-23.3	-3.3	-10.0	-33.4
増減	-5.1 ↓	-9.2 ↑	10.0 ↑	3.2 ↑	11.6 ↑	3.3 ↑	-26.7 ↓	-8.3 ↓	6.7 ↑

2.項目別の前月・今月のDI値の比較

		製造業				非製造業				全体			
		DI値		増減		DI値		増減		DI値		増減	
売上高	2022年4月	-26.6	-13.3 ポイント	↓	3.3	3.3 ポイント	↑	-11.7	-5.1 ポイント	↓			
	2022年3月	-13.3			0.0			-6.6					
在庫数量	2022年4月	-16.6	-6.6 ポイント	↑	-35.7	-14.2 ポイント	↑	-22.8	-9.2 ポイント	↑			
	2022年3月	-10.0			-21.5			-13.6					
販売価格	2022年4月	13.3	10.0 ポイント	↑	40.0	10.0 ポイント	↑	26.7	10.0 ポイント	↑			
	2022年3月	3.3			30.0			16.7					
取引条件	2022年4月	-20.0	3.4 ポイント	↑	-26.7	3.3 ポイント	↑	-23.4	3.2 ポイント	↑			
	2022年3月	-23.4			-30.0			-26.6					
収益状況	2022年4月	-30.0	16.7 ポイント	↑	-33.3	6.7 ポイント	↑	-31.7	11.6 ポイント	↑			
	2022年3月	-46.7			-40.0			-43.3					
資金繰り	2022年4月	-20.0	-3.3 ポイント	↓	-20.0	10.0 ポイント	↑	-20.0	3.3 ポイント	↑			
	2022年3月	-16.7			-30.0			-23.3					
設備操業度	2022年4月	-30.0	-26.7 ポイント	↓	/				-30.0	-26.7 ポイント	↓		
	2022年3月	-3.3							-3.3				
雇用人員	2022年4月	-23.3	-10.0 ポイント	↓	-13.3	-6.7 ポイント	↓	-18.3	-8.3 ポイント	↓			
	2022年3月	-13.3			-6.6			-10.0					
業界の景況	2022年4月	-23.3	13.4 ポイント	↑	-30.0	0.0 ポイント	-	-26.7	6.7 ポイント	↑			
	2022年3月	-36.7			-30.0			-33.4					

今月の業種別回答件数

	売上高		在庫数量		販売価格		取引条件		収益状況		資金繰り		設備操業度		雇用人員		業界の景況		
	増加	減少	増加	減少	上昇	悪化	好転	悪化	好転	悪化	好転	悪化	上昇	悪化	増加	減少	好転	悪化	
製造業	食料品	0	2	0	2	1	0	0	1	0	2	0	1	0	1	0	0	0	1
	繊維工業	0	3	0	0	2	0	0	1	0	3	0	2	0	3	0	1	0	2
	木材・木製品	2	1	0	1	0	0	0	1	2	1	1	0	1	1	0	0	2	0
	紙・紙加工品	0	1	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1
	印刷	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
	窯業・土石製品	1	2	0	1	3	0	1	0	1	1	0	0	1	2	0	2	0	0
	鉄鋼・金属工業	2	1	0	1	0	1	0	1	2	1	0	1	2	1	0	1	0	2
	一般機器	1	1	0	0	0	1	0	1	0	2	0	1	0	1	0	0	0	1
	電気機器	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0
	輸送用機器	2	3	1	2	0	0	0	1	1	3	0	1	1	3	0	2	1	3
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
非製造業	卸売業	0	2	0	2	1	0	0	2	0	3	0	0	/		0	0	0	3
	小売業	1	1	0	2	4	1	0	2	0	4	0	2			0	2	0	2
	商店街	2	1	0	1	3	1	0	1	1	1	1	1			0	2	0	1
	サービス業	3	0	/		3	0	0	1	1	0	0	0			2	0	3	0
	建設業	1	3			2	1	0	3	0	3	0	1			0	1	0	3
運輸業	3	2	2	0	1	0	0	0	1	0	3	1	2	0	3				

3.情報連絡員からの報告

製造業

水産食料品	<ul style="list-style-type: none"> ・資材備品等の値上り品目が増加した上に、電気料金の大きな値上がりりが収益性を圧迫している。 ・新型コロナの影響で組合員各社の操業がなかなか元通りにならず、組合の共同施設（主にインフラ関係）の稼働率も同様に上向いてこない状況にある。また製品の動きも鈍い状況から脱却出来ず、売上・仕入共に前年割れしている。
パン	<ul style="list-style-type: none"> ・パン製造に係る資材はほとんどすべてが値上がりしており、特に小麦粉は6月20日より平均17.3%の価格上昇が見込まれている。
織物業	<ul style="list-style-type: none"> ・円安が進み諸材料の高騰で原材料である綿糸等が3割程度上がってきている。ゆかたの受注はほとんどなく、前月同様に正絹(しょうけん)織物の受注が戻ったものの綿織物の受注が振るわないため、来年度まで待たないと回復は見込めない。
宗教用具	<ul style="list-style-type: none"> ・値上げ前の一時的なものだと思うが、需要の増加が見込まれた。継続を期待したい。すべての原材料が高騰しているため、収益面ではあまり期待できない状況である。
製材業、木製品	<ul style="list-style-type: none"> ・製材業者は、仕入値も販売価格も高止まりし落ち着いており、依然高操業が続いている。
骨材・石工品等	<ul style="list-style-type: none"> ・前期同様、売上げは増加傾向にあるが、燃料代や設備修繕費の増で、収益的には厳しい状況が続いている。
金属製品	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年比での操業率及び売上高は改善されているが、部品不足等による自動車業界の操業に不安がある。 ・電気代や燃料の高騰で経費がかさんでいる。
生産用機械器具	<ul style="list-style-type: none"> ・主要取引先から部品在庫1年分確保の通達が出たことから、代替品を含め調達に奔走している。
電気機械器具	<ul style="list-style-type: none"> ・中国のロックダウンの影響を含めて部品調達問題が継続発生しており、生産計画の変更が頻発している。また、原材料や副資材などの値上がりも続いており、親企業と連携して対策を進めている。 ・大型冷蔵庫は、生産販売共に好調を維持している。 ・家庭用と業務用のエアコンは、部品調達問題により生産は昨年を下回る状況となっている。
輸送用機械器具	<ul style="list-style-type: none"> ・新電力会社による電力供給の契約打ち切りや新規の申込み中止、電力料金の高騰など中小企業の事業継続に致命的な要因が発生しており、国レベルの救済策を打ち出すことが喫緊の最重要課題である。 ・半導体の不足が継続している中で、中国のゼロコロナ政策によるロックダウンの影響が心配される。また、ウクライナ情勢も先行きが見えない状況であり、大きな転換点となることが予想される。いずれにしても企業を取り巻きリスクは多岐にわたり、経営のかじ取りを難しくしている。 ・コロナ感染症、ウクライナ情勢等々世界情勢の変化により円安傾向に為替が大きく振れている。輸入価格が上昇するだけの悪い円安と言われているが、購入物価にどの程度影響がでるのか今後注視する必要がある。仕入れ鋼材など工業に欠かせない各種の物価が上昇した結果、取引先に価格転嫁を速やかにできるのか、経営力が問われる。 ・受注が少なく、原材料価格の上昇もあって厳しい。

非製造業

セメント卸売業	<ul style="list-style-type: none"> ・期初であるため荷動きは鈍く、昨年と同程度の出荷となった。
鮮魚小売業	<ul style="list-style-type: none"> ・小売業・業務卸売業とも、まん延防止等重点措置の解除で、売上高、来客数が回復。ただし、業務卸売業においては、コロナの感染状況次第で大きく下振れする可能性も予想される。収益面では、原材料価格やエネルギー価格の上昇に伴うコスト増加で、収益力のさらなる悪化が懸念される。

野菜・果実小売業	・玉葱の価格が高騰し、特に飲食店や学校給食へ納入している業者に大きく影響が出ている。
各種商品小売業	・物価高、エネルギー不足、円安など消費者経済をめぐる環境がどんどん悪い方向へ向かっている。それに加えて、過剰ではないかと思われる感染症対策が長期にわたっており、出口が全く見えない状況である。感染症対策が長期にわたったことも影響し、市民心理はもう元に戻らないとさえ感じている。
	・4月の静岡祭の開催などで、街には賑わいがあったが、直接的な売上にはなかなか結びつかない。今年度は、3年ぶりに静岡夏祭り夜店市を開催予定であり、このままコロナの感染が落ち着いてほしい。
	・コロナ禍における規制が緩和され、少しずつ日常が戻りつつあるように感じる。
宿泊業	・3月21日まで延長された「まん延防止等重点措置」解除後、県民割キャンペーンが再開されるに伴い、徐々に旅行需要の動きがみられるようになった。ゴールデンウィークを旅行喚起の機会として観光地の賑わいが期待される。
総合工事業	・工事発注が停滞気味になっている。
	・建設工事は昨年に続き4月からさらに材料価格の上昇があり、アスファルト合材・鉄筋・鋼材は毎月価格変動している。延期している物件の材料価格の下降は考えられないため、今期着工は難しい状況である。
	・鋼材価格が大幅に急上昇しているため、採算がとれない。
職別工事業	・鋼材価格の上昇による値下げ圧力があるものの、現状維持を保っている状況。夏にかけては非常に忙しく、人手不足が予想される。
道路貨物運送業	・4月の荷物情報は昨年に比べ増加傾向であった。しかし、中国上海のロックダウンの影響で、現地工場の稼働停止や生産調整による車両の空きが一部で見られた。燃料高騰やアドブルー(尿素水)の供給不足により、引き続き長距離輸送を控える傾向が続いているため、車両情報が低調であり、運賃の引き上げも数件みられた。
	・軽油価格の高騰、尿素水の原材料不足による値上げ等が生じているが、運賃に転嫁されていない。
	・軽油の値段が引き続き高騰。取引先の稼働日数の減少により売上が低く従業員は転職を考えている。 ・本業が回復しない中、業種の転換、業務内容の変更を考慮している。 ・運賃の値上げ交渉に応じてもらえない取引先からは撤退も考えている。 ・大型・中型免許を持っていても持っていない職種と給料が同じであれば他の職業に行ってしまう、新規の運転手は増えない。仕事を依頼したくても高い運賃を提示しないと受けってもらえない。
	・引き続き燃料高で苦しい。運賃は値上げ傾向にあり、今まで燃料の値上げ分を吸収していたが、燃料が下がる様子がないことから、カバーできない状況となる。
道路旅客運送業	・まん延防止等重点措置が解除されて1カ月以上経過し、旅客需要の回復はわずかながら出始めているものの、運送収入・輸送人員ともに新型コロナ感染拡大前の6割程度と厳しい経営状況が続いている。ゴールデンウィークを迎えて徐々に人の動きも出てきているようだが、マイカーによる移動が主流のためかタクシー旅客の伸びはわずかである。現状としては、物価や燃料高騰への対応として導入される経済対策に頼らざるを得ない。

4.中央会・行政への要望

各種商品小売業

- ・経済産業省の「がんばろう商店街」の詳細がわかり次第すぐに知りたい。

5.主要三指標における DI 値の推移

■2021年4月期～2022年4月期までの推移

全体	R3.4	R3.5	R3.6	R3.7	R3.8	R3.9	R3.10	R3.11	R3.12	R4.1	R4.2	R4.3	R4.4
売上高	-5.0	-13.3	-8.4	-10.0	-18.4	-20.0	-8.6	5.0	11.7	-18.3	-30.0	-6.6	-11.7
収益状況	-18.3	-20.0	-26.6	-23.4	-28.3	-36.7	-29.4	-31.7	-10.0	-41.7	-40.0	-43.3	-31.7
業界の景況	-36.6	-35.0	-38.3	-33.3	-38.3	-36.6	-34.5	-23.4	-18.4	-40.0	-46.6	-33.4	-26.7

製造業	R3.4	R3.5	R3.6	R3.7	R3.8	R3.9	R3.10	R3.11	R3.12	R4.1	R4.2	R4.3	R4.4
売上高	16.7	-16.6	-16.7	-13.4	-10.0	-13.3	-10.0	10.0	3.3	-23.3	-23.4	-13.3	-26.6
収益状況	-6.7	-26.7	-23.3	-13.3	-23.3	-23.4	-20.0	-16.6	-20.0	-43.3	-40.0	-46.7	-30.0
業界の景況	-23.3	-36.6	-43.4	-26.7	-36.6	-26.7	-30.0	-16.6	-20.0	-33.4	-43.4	-36.7	-23.3

非製造業	R3.4	R3.5	R3.6	R3.7	R3.8	R3.9	R3.10	R3.11	R3.12	R4.1	R4.2	R4.3	R4.4
売上高	-26.7	-10.0	0.0	-6.7	-26.7	-26.7	-7.1	0.0	20.0	-13.3	-36.7	0.0	3.3
収益状況	-30.0	-13.4	-30.0	-33.3	-33.3	-50.0	-39.3	-46.7	0.0	-40.0	-40.0	-40.0	-33.3
業界の景況	-50.0	-33.3	-33.3	-40.0	-40.0	-46.7	-39.3	-30.0	-16.6	-46.6	-50.0	-30.0	-30.0



■ 2021年4月期～2022年4月期までの推移

売上高	R3.4	R3.5	R3.6	R3.7	R3.8	R3.9	R3.10	R3.11	R3.12	R4.1	R4.2	R4.3	R4.4
製造業	16.7	-16.6	-16.7	-13.4	-10.0	-13.3	-10.0	10.0	3.3	-23.3	-23.4	-13.3	-26.6
非製造業	-26.7	-10.0	0.0	-6.7	-26.7	-26.7	-7.1	0.0	20.0	-13.3	-36.7	0.0	3.3

収益状況	R3.4	R3.5	R3.6	R3.7	R3.8	R3.9	R3.10	R3.11	R3.12	R4.1	R4.2	R4.3	R4.4
製造業	-6.7	-26.7	-23.3	-13.3	-23.3	-23.4	-20.0	-16.6	-20.0	-43.3	-40.0	-46.7	-30.0
非製造業	-30.0	-13.4	-30.0	-33.3	-33.3	-50.0	-39.3	-46.7	0.0	-40.0	-40.0	-40.0	-33.3

業界の景況	R3.4	R3.5	R3.6	R3.7	R3.8	R3.9	R3.10	R3.11	R3.12	R4.1	R4.2	R4.3	R4.4
製造業	-23.3	-36.6	-43.4	-26.7	-36.6	-26.7	-30.0	-16.6	-20.0	-33.4	-43.4	-36.7	-23.3
非製造業	-50.0	-33.3	-33.3	-40.0	-40.0	-46.7	-39.3	-30.0	-16.6	-46.6	-50.0	-30.0	-30.0

